左利きの国？！

めやす 90分

ねらい

- マイノリティ（少数者）の困難を、個人の問題としてとらえるのではなく、社会の構造としてとらえる。
- 多数派にとっては、あまり意識しないような社会のあり方が、マイノリティの困難につながっていることを知る。
- いまの社会が誰にとって生きやすい／生きにくいのかを考える。
- 社会を変えられるものとしてとらえ、よりよい変化のための主体となることをめざす。

キーワード

社会のなかでの有利／不利
個人モデル／社会モデル

準備物

•4つのコーナーの答えの紙　•ワークシート1人1枚　•A3白紙 グループに2枚
•模造紙（1/2サイズ）各グループ1枚　•マーカーセット 各グループ1セット
•資料1・2 各1人1枚 •セロハンテープ（4つのコーナーの答えを貼るために）

プログラムの流れ

5分	①	導入	●ねらいとルールの説明など
20分	②	ウォーミングアップ　4つのコーナー	●質問に対する自分の考えを動いてあらわす
45分	③	左利きの国？！	●さまざまな意見に出会う
20分	④	まとめ　社会を変えよう	●少数派であるために不利益をこうむらない社会を考える

時間	実際の詳細な手順	ポイント
スタート	**1　導入** 5分 今日はワークショップ形式で学んでいきます。ワークショップというのは、講師が答えを持っているのではなく、参加者のみなさんがやりとりしながら、考えを深めていく学び方です。 人権というと、難しく思われる方も多いかもしれませんが、できるだけ身近なところから考えていきたいと思っています。正解があるわけではありません。みなさんには、ふだんの言葉で、自分の思うことをおしゃべりしていただければと思	会場の設営 ・いすのみで、ファシリテーターに向かって半円形に並べる。 ※P68参照

います。
そのために、3つ、お願いがあります。この場では、「協力・尊重・守秘」をルール(約束)としたいのです。「協力」とは、おたがいに学ぶために協力しあいましょう、ということ。「尊重」とは、それぞれのあり方や意見・思いを尊重しましょう、ということ。「守秘」とは、ここで出された個人の経験や考えはこの場にとどめる(外に持ち出さない)、ということです。

●「協力・尊重・守秘」と板書する。

今日のテーマは、いわゆる社会での「少数者」(マイノリティと呼ばれることも多いです)にとって、なにが大変なのか、それを変えるにはどうしたらいいのか、ということを考えていきたいと思います。

5分経過

2 ウォーミングアップ　4つのコーナー

20分

では、ウォーミングアップをかねて、「4つのコーナー」という活動をやってみましょう。
これからいくつかの質問をします。その質問に対して、「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「まったくそう思わない」の4つから自分の答えを選び、その紙の貼られている場所へ移動してください。もちろん、正解はありません。みなさんが移動したら、なぜその場所(答え)を選んだのか、少しうかがいたいと思います。

●質問の答えを会場の四隅に貼る。

●質問リスト
*今日はとても調子がいい
*価値観が違う人と付き合うのはおもしろい
*日本の社会は、おおむね暮らしやすい
*常識やマナーを身につけるのは大事だ
*コミュニケーションがうまくいかないのは、双方に同じだけの責任がある
*自分らしさを出すより、まわりに合わせるほうが、世の中ではうまくやっていける

では、次の活動にうつりましょう。
グループに分かれて座ってください。

25分経過

3 左利きの国?!

10分

「100ます計算」ならぬ、「25ます計算」をやってみましょう。
お配りしたワークシートの左利き用をやってみてください。

- A3程度の紙に大きく「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「まったくそう思わない」と書くと、見えやすくてよい。
- 時間に応じて、参加者にインタビューをする。答えたくない人に無理強いはしないこと。
- 4〜5人程度のグループに分け、座ってもらう。
- 可能なら、「いまの質問の答えがあまり一緒にならなかった人とグループになってください」と声をかける。
- 参加者には、もちろん、左利きの人もいる。その人には、ふだんよく使われているプリントをやるときとどう違うか、自分の経験を積極的に話してもらうとよい。

●ワークシートを1人1枚配付し、やってもらう。

やってみていかがでしたか？　いまのは「左利きの国」であたりまえに使われているプリントです。右利きの方、これで計算の力をつけなければならないとしたら、どうでしょうか。

●グループで感想を話し合ってもらう。

15分

ふだんのわたしたちの社会は「右利きの国」になっています。そのことで左利きの人は、日常的にさまざまな不便・不利益があります。他にどのようなものがあると思いますか？

●A3の紙を配付し、グループで思いついたものを書いてもらう。

どのくらい出たでしょうか。左利きの不便・不利益についての資料を見てください。思いがけなかったものはあるでしょうか。

●資料1を1人1枚配付し、いくつか読んでみる。

20分

「100ます計算」は、タテの数字を左右両側に配置することで、左利きの人でもやりやすくすることができます。ほかにも、左利きだからといって不便にならないような工夫がずいぶんみられるようになってきました。
しかし、子どもが左利きだと分かった時に、まわりのおとなが右利きに“なおそう”とすることがあります。最近は減ってきたようですが、以前は多くの左利きの子どもが右利きになる練習をさせられてきました。子どもが将来困らないように、というのが理由のようです。
では、先ほど見たような左利きの人の不便・不利益は、こうした個人の（社会にあわせようとする）努力によって解決されるべきことでしょうか？　それとも、まわり（社会）が利き手に関係なく過ごしやすく変わることで解決すべきでしょうか。「個人の努力」と「社会の変化」、それぞれの「利点」と「限界」を分析してみましょう。

〔板書〕

	利点	限界
個人の努力		
社会の変化		

●模造紙とマーカー1セットを各グループに配付し、分析表を板書する。前に書いた分析表の枠を模造紙に写してもらう。各グループで話し合い、表を完成させる。

70分
経過

4 まとめ　社会を変えよう

5分

今日は、左利きということを切り口に考えましたが、わたしたちの社会にはさまざまな“少数派”がいます。そして、これまでは、少数派の側が(多数派を中心とした)社会のありかたにあわせるよう努力をすることが圧倒的でした。しかし、これからは、社会に人があわせるのではなく、さまざまな人がいることを前提とした社会をつくることが大切ではないでしょうか。そのためには、多数派の側も巻き込んで変化を起こす必要があります。
そのとき、多数派の中の個人の意識の変化や配慮を求めるのではなく、社会の仕組みを変える、という視点から考えてみましょう。少数派だということで不利益をこうむらないですむような「社会の変化」をうみだすために、どんな制度や仕組み(法律)があったらいいでしょうか?　アイデアを出してみてください。

10分

●A3の紙を配付し、グループで書いてもらう。

●出てきたものを全体に発表してもらう。

5分

制度や仕組みを考える、というのは難しかったかもしれません。が、個人の意識や心がけだけではなく、社会のあり方を問うこと、どうすれば社会が変わるかという視点をもつこと、そして、なによりわたしたちの力で社会をよりよいものに変えられる可能性があるということを、共有できればと思います。

●資料2を1人1枚配付し、紹介する。

- あえて書名に「障害者に迷惑な社会」という言葉を使った人もいる(松兼功著、1994年(平成6年)、晶文社)。

- アイデアなので、荒唐無稽(こうとうむけい)なものでもかまわない。
- 「国会に〈少数者枠〉を義務付ける法律」「少数者向けの商品が一般商品と同額になるための補助金制度」など。